

## 会員投稿 『大相撲観戦記』

新田町 佐藤 勇

9月15日、機会に恵まれて私と妻、実兄とその息子(私の甥)、義兄の5人で大相撲秋場所13日目を観戦に行った。私の兄弟、家族は父の影響でみんな相撲好きなのです。

父が相撲取りになりたかったかは定かではないが、身体が小さくやむなく行司になったようだ。行司と言っても大相撲ではなく田舎相撲の行司である。娯楽のなかった少年時代は村祭りとか、運動会とか、どさ回りの芝居を見るのが楽しみだった。その頃はどこの学校にも土俵があり、運動会とか何か記念行事があると必ずと言っていいほど相撲大会があって、父は行司としてその都度声をかけられ喜々として出かけた。幾らかお礼をいただいたようだがお礼目的ではなく、とにかく相撲が好きなのである。

私の兄も村の青年会の相撲仲間に入っていて部落(その頃集落をそう呼んでいた)対抗の大会などに出ていた。身体は大きくなかったが運動神経のよさと身体に似合わぬ力の持ち主で、米俵(1俵60kg)を右肩に担ぎ左手にもう1俵持てひよいひよい歩く程で、全盛期には村の代表で地方大会にも出たりしていた。

その息子(私の甥)は新人類属(族)の少し先輩で、いいもの食って樂をしているから背丈はあっても凡そ相撲取りの体系ではなく、相撲を含め格闘技は専ら見るのみが得意で、いつか帰省したとき一度本場所を見たいと洩らしていた。

そこで私はそれを何とか実現してやろうと心に刻み込んで、いろいろな手蔓や情報を駆使し入場券の入手に奔走(と言っても口先だけ)した。これが中々うまくいかない。が、ある時思いがけないことから渡りに船の話が飛び出し、溜席(いわゆる砂かぶり)1席と桟席4席、計5人分の席が確保出来たのです。溜席は前から5段目、東花道(力士入場口)に接していたから目の前を力士が入退場するし、テレビに映る絶好の位置だったようで「何でお前がそこにいるんだ」などと職場の同僚から甥に携帯が掛かったりした。この席は桟席と交代してもよいことになっていたので、5人が交代で砂かぶり観戦を楽しむことが出来た。とにかく相撲の美、迫力、熱気などテレビ桟敷とは比べるべくもない感動に浸ることが出来た。

秋田(私の実家)の田舎では一生かかるても手に入らないと思うから、兄や甥に話自慢のネタを提供することで自己満足しているのです。

